

テーマ：『 ソーラーカーを製作することを通して環境問題に目を向ける 』

横須賀市立 馬堀小学校

Tel. 046-841-0234

担当者： 高木理紗



■実践内容：

4年生の理科「電気のはたらき」で、キットを用いミニソーラーカーを走らせた。太陽の光で車が動くことに子ども達は好奇心を抱いた。どの児童も自分のソーラーカーを大切に、「走らせない！」という思いを持って活動していた。この成功体験をもとに「自分達が乗ることができるソーラーカーを作ろう。」という活動をスタートした。

子ども達は、「友達と一緒に乗ると楽しいから4人乗りがいい。」「走るためには軽いほうがいいから1人乗り」など、それぞれの思いを持って設計図を考えた。その設計図をもとに、木など身近な材料を持ち寄り小さなソーラーカーを作った。その後、どのようにしたら人が乗り走ることができるかを話し合い、作り方のアドバイスをもらうためソフトエネルギープロジェクトというNPOの団体の方に協力してもらった。また、シニアカーの製作をされている方にも協力してもらい、人が乗ることができるソーラーカーを完成させ皆で乗ることができた。この活動中、ソーラーカーの作り方だけではなく、環境を汚さないエネルギーがあることや、環境に配慮した取り組みなどについて学んだ。そして、自分達にもできる環境に配慮した行動を考えた。

■実践成果：

必ず完成させるという思いで取り組んだ子ども達だったが、時間の経過とともに無理ではないかという思いを持つ児童も出てきた。そのようなときには、初めに皆で決めた「あきらめない」「みんなで協力する」という目標に立ち返り、課題解決のためにはどのようにしたらいいかを皆で考えた。「人が乗ることができるソーラーカーを作ること」を自分達が考え、様々な人の協力を得ながら達成したことは、子ども達にとって大きな喜びとなった。

また、自分達が作ったソーラーカーは太陽の光をエネルギーとして走ることができるクリーンなもので、今後活用が期待されている素晴らしいものだということも環境問題を考えるきっかけとなった。

ソーラーカー作りに協力してくださった方から色々な話を聞くことで、環境に配慮した生活を考えることができた。

■実践ポイント：

- ・子ども達が興味を持っていることを探し、実践に生かした。
- ・子ども達の思いを大切にするために、思いを丁寧に聴き、全体で確認した。
- ・子ども達だけでは解決できない壁にぶつかったとき、そこで諦めるのではなく人の助けを借りながらも達成することを目指した。そのことにより、環境問題解決に従事されている方たち思いを知り、自分たちの生活を見直したり、協力してくださった方・周りの方への感謝の気持ちを持つたりすることができると考えた。